

平成 25 年度子ども・子育て会議専門部会の結果報告

協議事項 であえーる岩見沢における子育て支援施設の集約について

- 経 緯
- 第 1 回 平成 25 年 12 月 27 日（金）16 時 30 分
子育て支援施設の集約について
—遊び場のコンセプトとゾーニングの考え方—
- 第 2 回 平成 26 年 1 月 14 日（火）10 時
子育て支援施設の集約と連携について
—子育て支援センターと保健センター（乳幼児健診）との連携
の効果ほか—
- 第 3 回 平成 26 年 2 月 13 日（木）17 時 30 分
子育て支援施設の集約と遊び場の整備について

要 旨

- 第 1 回
- ・遊び場は、走り回れるだけでなく、くつろげる場とする。絵本は遊び道具の一つとして考える。
 - ・遊び場には、できるだけ物が少ないことが望ましい。
 - ・幼児と小学生とが一緒に遊ぶのは危険だが、一方で異年齢の交流も大事。
- 第 2 回
- ・遊び場には、元気で動き回れる動的な場所とくつろげる静的な場所があればいい。
 - ・遊び場は、特に目的がなくても来やすい場所であり、見守ってくれる人、遊びを指導してくれる人、ソーシャルワークの役割をしてくれる人がいることが大事で、教育大との連携なども検討する。
 - ・遊び場は健診スペースに近く、子どもと保護者が待ち時間の間、簡単な飲食もできることが望ましい。
 - ・子どもの施設に相応しいように、全館、禁煙を検討する。
- 第 3 回
- ・子どもが安心して遊びに熱中できる環境として、安全面を重視した運営管理とする。出入り口の管理、遊びを指導できる人の配置が大事。
 - ・施設的设计、遊具の配置は、施設の管理者や保護者が子どもを見守ることができることを重視する。
 - ・車椅子の利用についても検討する。
 - ・2 か所の遊び場は、目的や仕上げを分け、動的な遊び場は、天井の高さを活かした遊具として、ボルダリングなども検討。